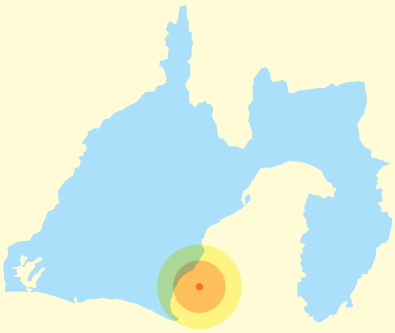
◉榛南磯焼け対策活動協議会

代表　薮田　国之

〒437－1623　御前崎市港 6131　南駿河湾漁業協同組合　tel.0548-63-3111

主な構成員（人数）：漁業者（55 名）、漁業者※以外（9 名）　　計 64 名

関係市町：御前崎市・牧之原市・吉田町　　※南駿河湾漁協職員・ダイバー



●活動地域

当活動協議会は、静岡県御前崎市・牧之原市・吉田町の2市１町に及ぶ沿岸海域で活動しています。磯焼け以前は、サガラメ・カジメによる約8,000ヘクタールの藻場が形成されていて、日本でも有数の藻場として知られていました。

●協定面積　48.2ha

対象種の紹介

当地域の磯焼けは、平成初め頃に部分的に見られる程度でしたが、その後は急速に藻場の衰退が進み、数年後には海域全ての藻場が消滅してしまいました。それにより特産であったサガラメ（牧之原市相良が名称の由来）の採藻漁業も途絶えると共にアワビ等の漁獲量も激減するなど、生態系と水産資源に与える藻場の重要性を改めて実感しました。

■藻食性魚類（アイゴ）による食害

■復活したカジメ藻場に群れる魚

対象種の分布・生育状況

対象とするサガラメ・カジメ藻場は榛南沿岸域の岩場にかけて広く分布し、アワビ・サザエをはじめ、磯根漁場の主要漁場であり、藻場を形成するサガラメは古くからこの地域の特産品としても食されてきました。相良沖を中心にカジメ群落が少しずつ回復していましたが、高水温の影響でカジメが大幅に消失してしまった状況です。大幅にカジメ群落が消失してしまいましたが、カジメが残存している場所や幼体が確認できた地点があるなど今後のカジメ藻場の動向を注視していく必要があります。

保全活動の必要性

藻場は多くの水生生物の生活を支え、産卵や幼稚仔魚の成育の場になって生物多様性を維持しているほか、水質浄化にも大きな役割を果たしています。最近では、陸上の森林よりも多く二酸化炭素を貯留する役割についても注目されています。一旦ゼロになってしまった藻場も徐々に回復してきていますが、さらなる生物多様性の向上を目指し、引き続き保全活動を実施する必要があります。

これまでの活動成果

種苗投入、母藻設置などの活動を続けた結果、870haものカジメ藻場が確認されていましたが、昨年の高水温の影響により、カジメ藻場が大幅に消失してしまいました。大幅に藻場は消失してしまいましたが、高水温を耐えたカジメやその幼体が確認されています。

今後の活動指針

●保全活動の目標

相良地区のカジメ藻場は 10 年前には想定できなかった回復をしましたが、昨年の高水温の影響により、カジメ藻場が消失してしまいました。消失した藻場に新たなカジメ幼体が確認されている箇所や高水温を耐え抜いたカジメもある為、今後もカジメ、サガラメ藻場復活にむけた活動を行っていきます。